



大塚だより

大田区立調布大塚小学校
校長 玉野 麻衣



「おおたの未来づくり」の学習について

副校長 戸村 隆之

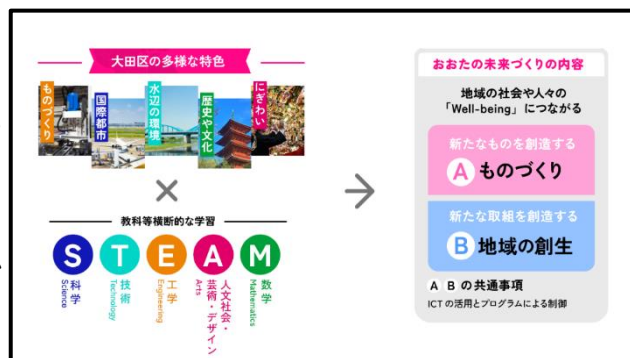
本校では、大田区独自教科「おおたの未来づくり」の新設に向けた研究実践校に指定され、令和4年度から研究実践を行っています。

「おおたの未来づくり」の学習は、都内1位の工場数を誇る「ものづくりのまち」、乗客数日本一を誇る「羽田空港を要する国際都市」、都内で一番多い商店街など、大田区の多様な特色を各学校が教科横断的な学習の視点で教材化し、児童が「Aものづくり」と「B地域の創生」の両方にチャレンジするという内容です。

本校では、田園調布せせらぎ館を活用した学習に取り組んだり、区内の企業インフィニウムジャパン様と連携した、ものづくりや国際交流の学習などを行ったりしています。

本校の取組事例については、学校ホームページ内「教育活動」>「独自教科「おおたの未来づくり」の取組について」のページで随時紹介していきますのでご覧ください。

7月に6年生が行った多摩川台公園の古墳見学で学んだことをパンフレットに情報発信をしました。6年生が作成したパンフレットが田園調布せせらぎ館に10月下旬まで展示されています。お近くにお越しの際は、是非ご覧ください。



10月の生活目標

「ものを大切にしよう」

○普段自分が使っている学習用具や学校で借りたものを大切に使っていますか。ものを大切に使うことは自分や友達を大切にすることにもつながります。この期間にもものを大切にしているかふり返ってみましょう。

10月の保健目標

「目を大切にしましょう」

○2学期にも視力検査を行います。メガネを持っている児童は忘れないようにしましょう。授業中タブレットを使う際は、姿勢に気を付け画面と目の距離を意識しましょう。

4年生より

4年担任

1学期は、自分の学んだこと、考えたことをノートや新聞、ポップ等に表現する活動を中心に学習を進めました。こどもたちは、授業での話し合いや調べ学習、ゲストティーチャーの講話などから知識を付け、まとめていきました。作った新聞を読み合う活動では、友達の表現のよさを称賛する姿も多く見られました。

2学期は、総合や社会の学習を中心に、他者に伝える（発表する）活動に重点をおきたいと考えています。自分の学習から得た知識や思い、考えをより分かりやすく相手に伝えるためにはどうすればいいか、個やグループで試行錯誤したり友達と交流したりする中で学んでいきます。また、社会科見学、六郷用水フィールドワークなど、校外に出での活動も多くあります。1学期よりも活動の幅を広げ、様々な経験、体験を積み重ねながら、一人一人にとって充実した2学期にしてほしいと思います。

保健室より

養護教諭

メガネが日本に伝わったのは、フランシスコ・ザビエルが持ち込んだのが最初だったと言われています。この時代のメガネは「つる」がなく、手で持つタイプでした。（※つる…耳にひっかける部分）その後、ひもで耳にかけるタイプが発明されますが、西洋の人に比べると鼻が低い日本人はまつげがレンズに触れてしまいます。そこで「鼻あて」が発明されたとのこと。ぜひ、メガネをかけている人に見せてもらってください。

今はメガネの選択肢がたくさんあります。着用感はフレームの種類で大きく変わります。常につけているのか、授業中のみ使うのかで度数の調整の仕方も変わってきます。

眼科の先生やメガネ屋さんの店員さんに相談して、自分にぴったりのものを選んでください。

体育発表会の見どころ

体育発表会委員長

運動会から名称を変更し「体育発表会」とすることになりました。日々の学習や生活の成果を発揮することをねらいとし、全員が取り組める「表現運動」「短距離走」「縦割り班競技」を行います。表現運動では、教員が演出した動きだけではなく、ペアやグループでどのような動きをしたいか話し合って取り組みます。短距離走では、手の振り方、目線、カーブの体の傾け方など、どうすれば速く走れるか、体育の学習で学んだことを生かして走り抜けます。縦割り班活動は、玉入れを行います。「未来プロジェクト」に所属する児童が、学校目標「他学年との関わりを大切にしよう」を実現させるために、競技内容を考えました。これまでの縦割り班活動で深めた仲の良さを生かしてくれることと思います。

今年の体育発表会のスローガンは、「努力の結晶を心に刻み、心に残る瞬間を！」です。各学級から案を募り、代表委員会がまとめました。日々の努力の成果を思う存分発揮できるよう願っています。

新たな形での行事となりますが、ご理解ご協力をお願いします。